

# ユニオンファンド 月次レポート

第 113 号

追加型投信 / 内外 / 株式 分配金再投資専用ファンド

2018年4月5日作成

## MONTHLY TOPIC

## 荒れ模様の相場とも仲良く付き合う

### 「適温相場」が異例だった

2月に引き続き株式市場は荒れ模様となっており、ユニオンファンドの基準価額もかなり下がってしまいました。先行きを不安に思っておられる方が増えているのではないかと申し訳なく思っています。

振り返りますと、去年は世界の株価の平均値が月次ベースで一度もマイナスにならないという、極めて好調な展開でした。いつ買っても儲かるし、売らなくても損しないという、あまりにも理想的な相場だったと言えます。しかしこれこそ異例のことであり、多少の波乱が起こる方がむしろ株式市場にとっては普通です。

一転して荒れ模様になったのはなぜかと言えば、前月号でも触れましたが、「超」のつくほど安定した株価上昇を前提にした商品を購入したり投資戦略を採用したりしていた投資家が、突然の変動を見て慌てて反対売買したことにあると思っています。今もその影響が残っているようです。また、低インフレを背景とする低金利と着実な景気拡大という二つの好材料を背景とした「適温相場」に慣れ過ぎて、びっくりした投資家が多かったとも思います。今は、そうしためったにない好調な相場から、ごく普通の少々荒っぽい相場に戻る時期なのでしょう。

### 熱くなり過ぎず、怖がり過ぎず、無視もせず

「儲かって儲かって仕方ない」という相場は、とても危険です。上がっている相場を見て、「今買わないと永遠に買えない」とか、「もっと思い切って買っておけばよかった」と思ったときは、とても慎重に行動すべきです。

「下がりそうだからその前に売る」というのもお勧めできるアイデアではありません。仮にうまく売り抜けられたとしても、下がった時に買い戻すことは案外難しいものです。なぜなら、売った時よりも環境が悪化しているからこそ株価はさらに安くなっているわけであり、そうした時に買うというのは相当な勇気が必要だからです。結局安値で買い戻しできず、売った値段より高く買い戻す方はかなり多いと思います。

時々急落してヒヤリとさせられたり、まったく動かなくなってウンザリさせられたりする相場の方がマシです。持続的な上昇力を維持したままでいられるからです。「上がらなくて残念」、「つまらない」、「これで本当にいつか財産は作れるのだろうか」と心配になっているときは、むしろ買い増しを考えるチャンスかもしれません。

とはいえ、ここ20年間に2回あったような大きな下落からは逃れたいですから、ファンドマネージャーとして全方位の監視をさらに強めていきます。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## UNION FUND REPORT

## ユニオンファンド運用状況

(2018年3月末現在)

## 基準価額

24,487 円

## 純資産総額

59 億 96 百万円

## 期間別騰落率(%)

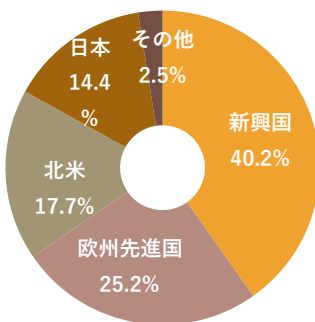
1 ヶ月	-5.31%
6 ヶ月	-1.99%
1 年	7.81%
3 年	13.01%
5 年	55.55%
設定来	144.87%

## 複利年率(%)

9.94%

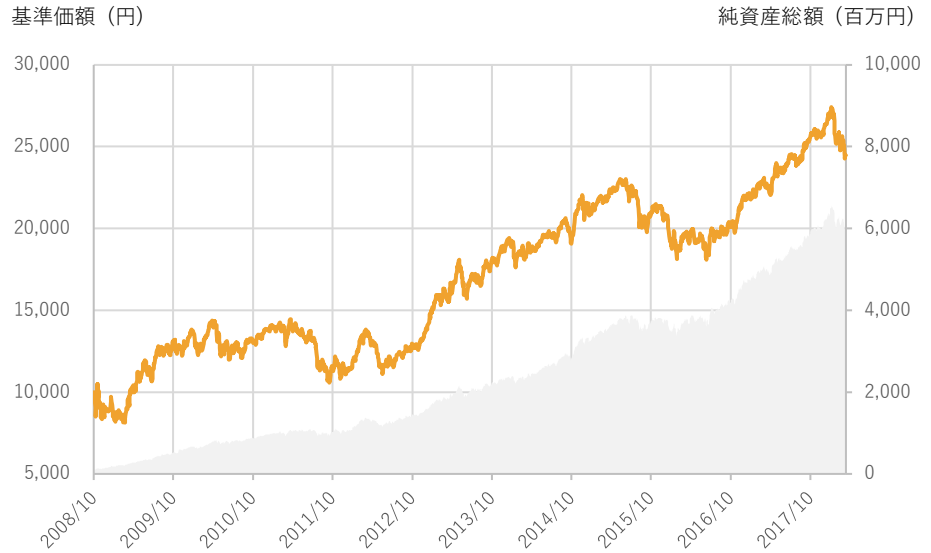
\*「複利年率」とは設定日から基準日までの騰落率を年率（複利）で表したものです。「複利年率」は過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また受益者ごとの購入時期によって異なります。

## 地域別構成比



投資部分(現金等を除く)に占める比率  
(2018年2月末現在)

## 基準価額と純資産総額の推移



## 組入ファンドの内訳

ファンド名	主な地域	組入比率(%)	月間騰落率(%)※
さわかみ F	日本	7.2%	-4.8%
スパークス F	日本	7.4%	-2.6%
キャピタル F	欧米	13.8%	-3.6%
ハリス F	欧米	21.4%	-8.1%
コムジェスト・ヨーロッパ F	欧州	6.0%	-2.9%
コムジェスト・エマージング F	新興国	37.0%	-6.7%
現金等	-	7.1%	-

※ 騰落率はユニオンファンドの基準価額に反映する日付で計算

## ファンドの特長

- ① 長期で「債券」の収益率を上回るとされる「株式」に投資します
- ② 世界の経済成長を享受するため、「グローバル」な視点で投資します
- ③ 専門性の高い複数ファンドに投資する「ファンド・オブ・ファンズ」で運用します
- ④ 実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します
- ⑤ 株価が割高と思われるときには現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## UNION FUND REPORT

## 2018年3月の市場動向と運用状況

### 投資環境と基準価額の推移

3月の株式市場は、賃金上昇によるインフレと金利上昇を警戒して急落した2月に続き、総じて軟調に推移しました。世界全体としては5%前後の下落となり、2ヵ月連続の値下がりで行われました（騰落率はユニオンファンドの基準価額に反映する日付ベース）。

トランプ政権が相次いで打ち出した保護主義的な政策をきっかけに米中の対立が深まったことが、新たに大きなマイナス要因となりました。貿易が落ち込めば経済成長率が鈍化し、企業業績にも悪影響が及ぶからです。また、この動きとは別に、直近の景気指標がやや足踏み状態になっていることや、米国のいくつかのハイテク企業が苦境に陥り株価が大きく下落していることも投資家心理を冷やしました。

政治面では、北朝鮮問題が予想と異なり好転の方向となりました。一方、米国トランプ政権の中核では主要ポストの交代が相次ぐなど混乱が続く、日本では森友問題に絡んで財務省の決裁文書の書き換えが発覚するなど、全体としては波乱要因となりました。

為替相場が若干ながら円高となったことも加わり、組入ファンドは全て値下がりしました。このためユニオンファンドの基準価額は先月以上に値下がりしました。

### 運用の状況

引き続きスパークスFを買い増しました。また、海外株に投資しているファンドについても、2月には見送った買い増しを実施しました。いずれも値下がりによって追加投資のチャンスと判断したためです。この結果、3月末時点の組入比率は全体で92.9%と、2月末より3ポイント上昇しました。

### 今後の見通しと運用方針

ここ2ヵ月、連続して株価はやや大きく下落しましたが、これは昨年後半にトランプ政権の減税で盛り上がりすぎた反動との見方を維持しています。このところ市場の混乱要因となっている貿易問題についても、トランプ大統領の交渉術という面が強いと見ており、世界経済に決定的な悪影響が及ぶとは予想していません。とはいえ、交渉過程では米中両国がさらに強硬な姿勢を示し、投資家心理を悪化させることは十分に予想されます。今しばらくは株価の変動率が大きいまま推移し、もう一段の下落もあり得ると注意して見えています。

ただ、今回の株価調整の結果、多くの株式市場で割高感はかなり解消または緩和され、一部には相当割安な市場も出始めています。投資家が最も警戒していた金利の上昇もとりにあえず止まっていますし、実体経済についても、拡大ピッチがやや鈍ったとはいえ引き続き良好です。こうした点を考えあわせると、株価上昇の基調が完全に崩れるほどとはならず、多少の時間はかかるかもしれませんが徐々に回復に向かっていくと考えています。仮に今後一段と大きく値下がりする場面があれば、さらに買い増しを行う考えです。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

# さわかみファンド

基準価額の推移



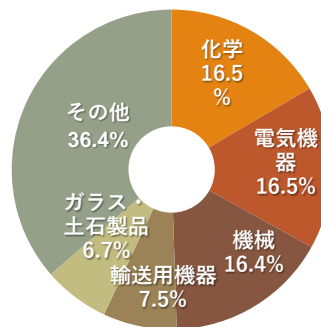
国別構成比



組入銘柄トップ10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 日本電産	5.3%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
2 プリチストーン	4.4%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
3 花王	3.9%	日本	化学	トイレットペーパー首位
4 TOTO	3.5%	日本	ガラス・土石製品	衛生陶器首位
5 ダイキン工業	3.2%	日本	機械	エアコン世界首位
6 信越化学工業	2.9%	日本	化学	塩ビ・シリコンエポキシ世界大手
7 国際石油開発帝石	2.9%	日本	鉱業	石油メジャー
8 浜松ホトニクス	2.8%	日本	電気機器	光検出器の世界的企業
9 テルモ	2.6%	日本	精密機器	医療機器（カテーテル）
10 トヨタ自動車	2.6%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
<b>上位10銘柄</b>	<b>34.1%</b>		<b>現金等</b>	<b>10.1%</b>

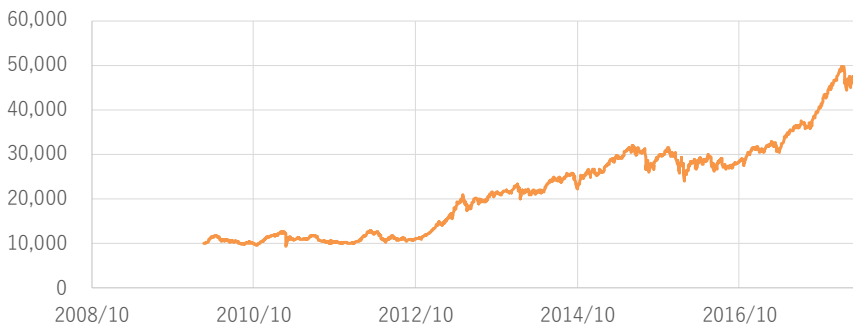
業種別構成比



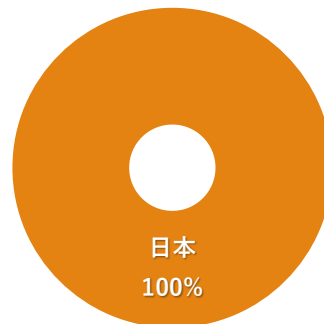
※ 業種：東証33業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2018年3月末現在>

# スパークスF (スパークス・集中投資・日本株ファンドS)

基準価額の推移



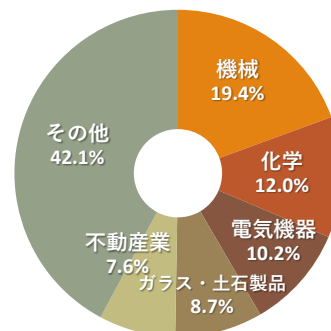
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド) ※組入比率の記載はなし。証券コード順。

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
ビックカメラ	—	日本	小売業	大手家電量販店
MARUWA	—	日本	ガラス・土石製品	セラミック基板世界トップ
三浦工業	—	日本	機械	産業用小型ボイラー大手
日精エー・エス・ビー機械	—	日本	機械	プラスチック容器成形機・金型メーカー
オルガノ	—	日本	機械	水処理装置大手
山洋電気	—	日本	電気機器	冷却ファン・サーボモーター等
フェローテックホールディングス	—	日本	電気機器	半導体等の装置材料・部品メーカー
マニー	—	日本	精密機器	手術用縫合針、眼科・歯科治療機器
エフピコ	—	日本	化学	食品トレなど容器の大手
トーセイ	—	日本	不動産業	不動産流動化・開発・賃貸等
<b>現金等</b>			<b>現金等</b>	<b>7.6%</b>

業種別構成比(マザーファンド)

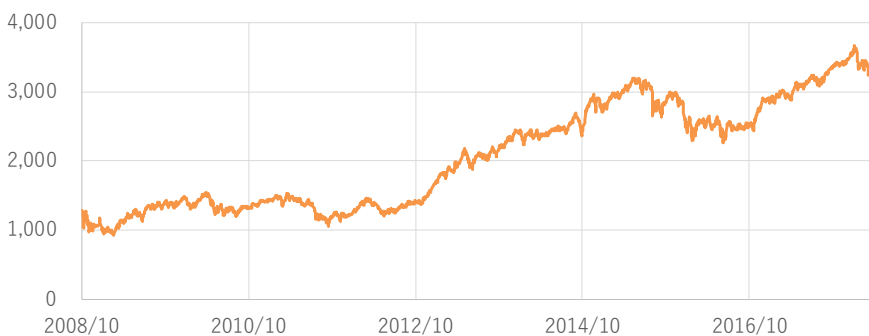


※ 業種：東証33業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017年2月末現在>

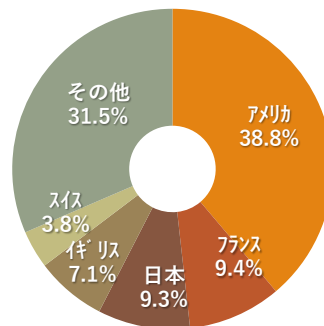
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

# キャピタルF (キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラスZ)

基準価額の推移



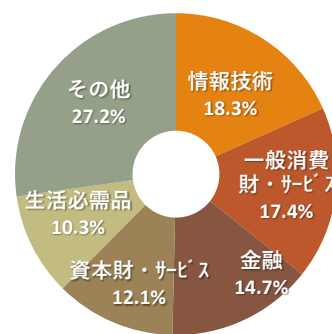
国別構成比



組入銘柄トップ10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 Airbus	2.0%	フランス	資本財・サービス	世界有数の航空機メーカー
2 ASML	1.9%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
3 Pernod Ricard	1.8%	フランス	生活必需品	アルコール飲料、食品
4 Alphabet	1.7%	アメリカ	情報技術	グーグルの持ち株会社
5 Vale	1.6%	ブラジル	素材	鉄鉱石などの総合資源開発会社
6 Enel	1.5%	イタリア	公益	国内最大の電力会社
7 Deere	1.4%	アメリカ	資本財・サービス	大手農機・建機メーカー
8 AIA	1.4%	香港	金融	生保・金融サービス
9 Microsoft	1.3%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピュータ・ソフト
10 CME	1.2%	アメリカ	金融	先物等の国際的取引所
上位10銘柄	15.8%	現金等	3.4%	

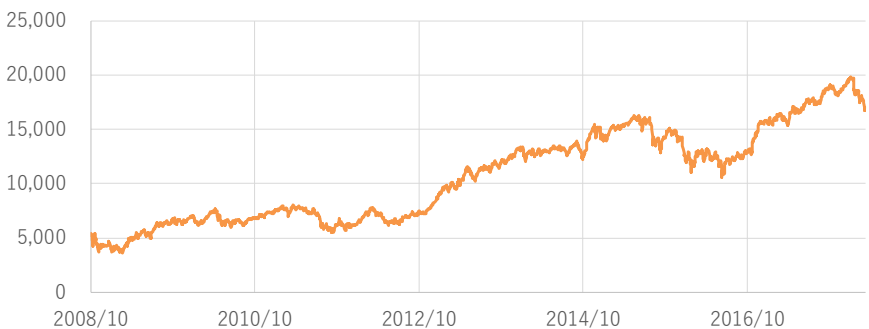
業種別構成比



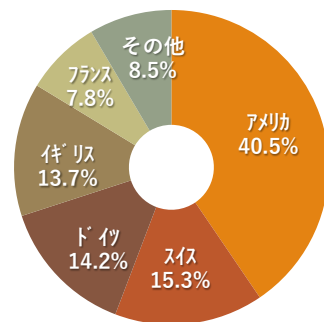
※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017年2月末現在>

# ハリスF (ALAMCOハリス グローバルバリュー株ファンド2007)

基準価額 (分配金込み) の推移



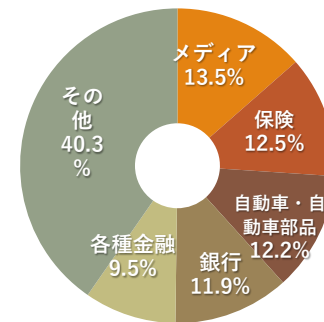
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 BNP PARIBAS	5.6%	フランス	銀行	フランス大手銀行
2 DAIMLER	5.6%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
3 ALLIANZ	5.2%	ドイツ	保険	総合保険大手
4 GLENCORE	4.3%	イギリス	素材	鉱山開発・商品取引
5 CREDIT SUISSE	4.2%	スイス	各種金融	スイス大手銀行
6 CNH INDUSTRIAL	4.1%	オランダ	資本財	農機・建機メーカー
7 WPP	3.6%	イギリス	メディア	大手広告代理店
8 HCA HEALTHCARE	3.6%	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	米最大の病院経営会社
9 LAFARGEHOLCIM	3.4%	スイス	素材	セメント世界一
10 GENERAL MOTORS	3.4%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグ3の一角
上位10銘柄	43.1%	現金等	5.0%	

業種別構成比(マザーファンド)

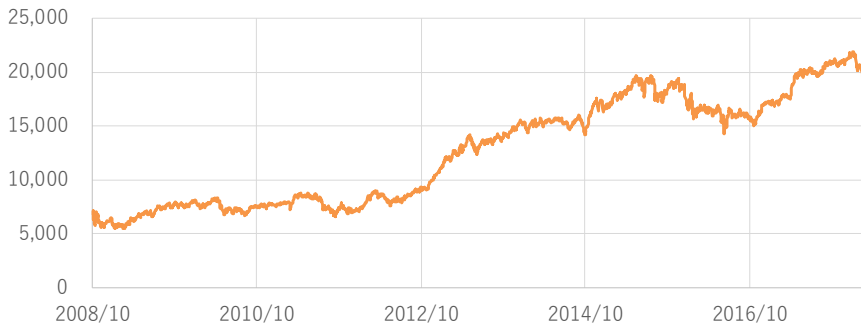


※ 業種：MSCI世界産業分類基準の24産業グループ、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017年2月末現在>

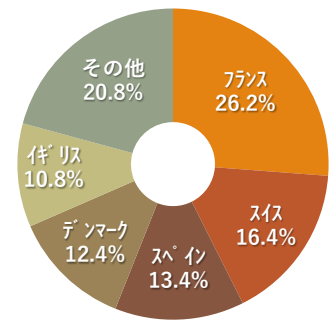
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

# コムジェスト・ヨーロッパF (ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドSA)

基準価額の推移



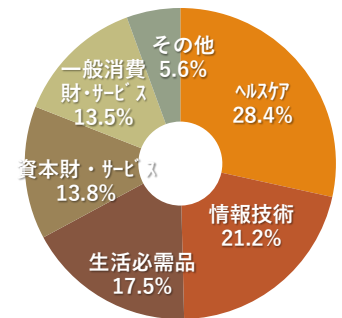
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 INDITEX	6.4%	スペイン	一般消費財・サービス	アパレルメーカー
2 AMADEUS	6.4%	スペイン	情報技術	旅行予約システム
3 ESSILOR	5.2%	フランス	ヘルスケア	光学製品
4 SARTORIUS STEDIM	4.7%	フランス	ヘルスケア	ウイルス除去フィルター
5 COLOPLAST-B	4.5%	デンマーク	ヘルスケア	人工肛門世界大手
6 DASSAULT SYSTEMES	4.4%	フランス	情報技術	欧州大手3Dソフト会社
7 ASSA ABLOY	3.8%	スウェーデン	資本財・サービス	鍵等のセキュリティシステム世界大手
8 SAP	3.3%	ドイツ	情報技術	ビジネス向けソフトウェア大手
9 CHRISTIAN HANSEN	3.3%	デンマーク	素材	乳酸菌・酵素製剤
10 AB FOODS	3.3%	イギリス	生活必需品	食品製造・衣料小売
上位10銘柄	45.4%		現金等	4.7%

業種別構成比(マザーファンド)



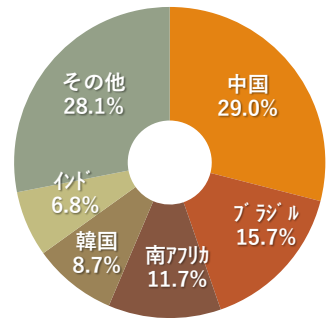
※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2018年3月末現在>

# コムジェスト・エマージングF (ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA)

基準価額の推移



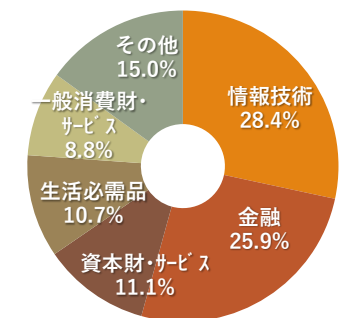
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 TSMC ADR	5.8%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2 COGNIZANT TECHNOLOGY	4.5%	アメリカ	情報技術	インドに受託拠点を置くIT会社
3 PING AN INSURANCE	4.3%	中国	金融	保険大手
4 CHINA LIFE	4.3%	中国	金融	生保国内最大手
5 MTN	3.8%	南アフリカ	電気通信サービス	携帯電話
6 NETEASE ADR	3.8%	中国	情報技術	オンラインゲーム
7 BAIDU ADR	3.5%	中国	情報技術	検索エンジン世界2位
8 SANLAM	3.5%	南アフリカ	金融	アフリカの保険大手
9 SAIC MOTOR	3.4%	中国	一般消費財・サービス	国内大手自動車メーカー
10 SAMSUNG LIFE	3.3%	韓国	金融	生保
上位10銘柄	40.3%		現金等	1.0%

業種別構成比(マザーファンド)



※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2018年3月末現在>

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## NOTICE

## 業務管理部からのお知らせ

### 取引残高報告書について

今回、「平成 30 年 1 月～3 月」の期間中にお取引があったお客様を対象に、郵送にてご報告しています。

※ 口座に残高があるお客様で、前回の「取引残高報告書」作成日以降お取引がない場合には、1 年毎に「取引残高報告書」にてご報告いたします。

#### 「お取引の明細と預り金の残高明細」の見方

記載対象期間内にお取引された明細および作成日現在のお預り金の残高です。

※ 最後に表示される「お預り金」につきましては、“作成日現在”でユニオンファンドの買付が完了していない場合にはその金額が、完了している場合には「0 円」が表示されます。

#### 「お預り証券等の残高明細」の見方

お預り証券等の残高明細（イメージ）

銘柄名	数量	評価金額合計 [a]	運用損益[a-b+c]	円
	基準価額	投資金額 [b]		
( 預り区分 )	評価金額	受取金額 [c]		
( 決算日 )	取得単価	個別元本		

※a,b,c 及び運用損益は全預り通算で算出

数量	ユニオンファンドの残高口数です。
基準価額	作成日（平成 30 年 3 月 30 日）現在の基準価額です。
評価金額	作成日現在の残高の「評価金額」です。 （「評価金額」＝「数量」×「基準価額」÷10,000 で算出されます。）
取得単価・個別元本	これまでユニオンファンドを取得された価額の加重平均です。 一般口座でのお取引の場合は、「個別元本」のみが表示されます。
評価金額合計 [a]	評価金額の合計です。
投資金額 [b]	ご購入された金額の累計です。 ※ 相続等により入出庫があった場合は、入出庫分の購入金額または取得価額に相当する金額が増減されます。
受取金額 [c]	ご解約された金額及び受取分配金額の累計です。 ※ ユニオンファンドは設定来、分配金を出しておりません。
運用損益[a-b+c]	作成日現在の運用損益です。 「運用損益」＝「評価金額合計」－「投資金額」＋「受取金額」

ご不明な点がございましたら、弊社業務管理部（TEL:0263-38-0725）までお問い合わせください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## RISK AND FEE

## ユニオンファンドのリスク・手数料

## 『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。－

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは、「価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」です。

## 『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。－

**申 込 手 数 料** お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。  
※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

**換 金 手 数 料** ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

**信 託 財 産 留 保 金** 信託財産留保金はありません。

**信 託 報 酬** 純資産総額に年 0.864% (税抜き 年 0.8%) の率を乗じて得た額です。  
毎日、当ファンドの信託財産より控除されます。  
[\*実質的な信託報酬：純資産総額に対して年 1.8% ± 0.3% (概算)]  
\* 『ユニオンファンド』が投資対象とする投資信託証券でかかる信託報酬を含めた率です。  
目安であり、組入状況により変動します。

**そ の 他 の 費 用** 上記のほか、次の手数料・費用等が当ファンドの信託財産より控除されます。

- ① 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料(消費税等相当額の費用を含みます)
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用(監査費用)(消費税等相当額を含みます)

※ 監査費用は委託会社が一部または全部を負担することがあります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。